





都会と島をつなぐ たとえば学びあい 大出俊幸さん

## 歴史の事実を掘り起こす人生

大出俊幸さんは先頃まで東京の出版社「新人物往来社」の名物編集長だった。出身はおとなりの因島重井町。「新人物往来社」は歴史物の出版では斯界一の定評がある。かたわら地方の郷土史家やその研究の発掘、出版も数多く手がけてきた。月刊雑誌では歴史読本が有名。

大出さんは歴史出版とは歴史上の事実をデータとして読者に提供することだという。自らは幕末史、ことに新撰組の権威。新撰組のことなら大出にきけ、で通っている。ドラマの時代考証に大出さんの教を乞うのは欠かせない。

千葉県流山市が幕末動乱期の新撰組の活躍の舞台であったことからそこに居を構え、新撰組研究と隊員の顕彰をしている。「新撰組友の会」「民学の会」「本の会」「因島自由大学」「東葛流山懇話会」などたくさん自主的学びの場も主宰。

「因島自由大学」は大出さんが学長。中世ヨーロッパのカタルーニアで自由、自主、自治の精神のもと市民が自ら学びの場を主宰した市民自由大学にちなみ命名したと聞いたことがある。

毎年一回、かつて大出さんが教師をしていた因島田熊中学校の教え子(昭和40年頃卒)が現地スタッフとして昨年までに14回の継続を数えている。聴衆は関東、東北、九州、アメリカと多岐にわたり、数十人が毎年来島する。今年も6月に予定されているようだ。



大出さんの目指すところは、島に来る人と島の人とが交流することを通じ、島の人が一歩外に踏み出す。そして未知の土地で学び交流する喜びを味わってほしいということ。地方に住む私たちが歴史を学び、歴史的に物事を見、事実をデータとして受け取り、そのうえで自ら判断をくだす。それが大事なのだとおっしゃる。

この活動も大出さんの本業であった編集長時代の人脈で多士済々の講師が来島された。企画を地元が立て、そのうえで講師へのつなぎを協力させてもらえるようになればいいのだがと大出さん。都会と島をつなぐ。故郷への深い愛があるからだと思う。大出俊幸さん(向かって右)と(平山和昭)

なテーマで書き続けられたら少し前までは・・・」みたいなぬ大オバはんはんに到達した筆者の「こんなことはなかった、どうかは存じません。」

このたびは、押しも押されぬ大オバはんはんに到達した筆者の「こんなことはなかった、どうかは存じません。」

青木喜代子



「FAXは昼間をお願い致します」若い事務員あてにFAXをした。近頃は何でもかんでも詳しく

「FAXは昼間をお願い致します」若い事務員あてにFAXをした。近頃は何でもかんでも詳しく

先日電話でコーヒー豆を注文した。ていねいに応対してくれた女性は「おそれいりませんがこの特典はFAXのみです。改めてFAXで注文しなおしてください」え？今あなたに直接注文してはいけませんか？「ハイ！」

突然だが元宇宙飛行士の秋山さんは、ケイタイもパソコンもすて、山の中で自給自足の生活をされている。右岸から左岸へ。そのお顔はとて誇らしげで満足そうに見えた。パソコンは便利よ。うん知ってるよ。でも私の中で、あつたら便利なものはなくてもいいものなのね。ペンだこ作りながら書けばボケ防止にもなるし、と憎まれ口をたたいているが、少々不安。

突然だが元宇宙飛行士の秋山さんは、ケイタイもパソコンもすて、山の中で自給自足の生活をされている。右岸から左岸へ。そのお顔はとて誇らしげで満足そうに見えた。パソコンは便利よ。うん知ってるよ。でも私の中で、あつたら便利なものはなくてもいいものなのね。ペンだこ作りながら書けばボケ防止にもなるし、と憎まれ口をたたいているが、少々不安。

くはホームページで、と。すみの方に検索の四角いマークがパソコンを使えない私をあざ笑っているかのように見える。こんなことはなかった。少し前までは。

春つらら。尾道へ行ったら映画をみませんか

尾道駅前  
**シネマ尾道の手配**  
 尾道の若者が復活させた  
 駅前映画館シネマ尾道の上映スケジュールです。  
 詳しくは ☎0848-24-8222

HP <http://www.cinema-onomichi.com/>

上映日	上映作品
4月17日	『サヨナライツカ』
～	『イングリシアス・バスターズ』
4月23日	『ファッションが教えてくれること』
4月18日は貸館のため別スケジュール	
4月24日	『サヨナライツカ』
～	『ジュリー&ジュリア』
4月30日	『クヒオ大佐』
5月1日	『恋するペーカリー』
～	『ジュリー&ジュリア』
5月7日	『クヒオ大佐』

シネマ尾道映画hpより抜粋

## ☆ツイッターまがい (1)

時の総理や閣僚もはまっているというインターネット簡易掲示板。Twitter・ツイッターという。140字の文字制限があるが参加者が何百万人もいるので、書けば必ずだれかの目にとまる。上島町岩城・積善山の桜についても、すでに誰かが世界中にその情報を流しているだろう。

先日は積善山の桜祭りだった。3000本と公称される桜だが、ここにも高齢化の波が押し寄せている。3月議会でも岩城の議員が手ぬるい質問をしていたが、積善山の桜は風前の灯火だ。寿命、あるいは病気で貧相になる一方の桜。老桜が一杯一杯がんばっているが、このままではたちまち看板に偽りありとなる。町の指揮官はどう思っているのだろう。